【野生動物】　症例報告

北海道江別市内で発見されたコバシギンザンマシコ *Pinicola enucleator kamtschatkensis* 1個体の剖検記録

平山　琢朗[1)]　棚田　敦司[2)]　浅川　満彦[1)]

1）酪農学園大学獣医学群獣医学類感染・病理学分野（〒069-8501 北海道江別市文京台緑町582）
2）ぱんだ動物病院（〒067-0063 江別市上江別西町38番地の4）

（受付2013年4月30日）

要　　約

2012年11月に江別市内で衰弱していたところを保護され、その後に死亡したコバシギンザンマシコ *Pinicola enucleator kamtschatkensis* 1個体を剖検した。インフルエンザウイルスおよびウエストナイル熱ウイルスの簡易試験を剖検時に採取した材料を用いて実施した結果は、いずれも陰性であった。所見から明確な死因は特定されなかった。ギンザンマシコ属 *Pinicola* の剖検記録は皆無であり、貴重な獣医学的記録となった。

キーワード：コバシギンザンマシコ、衰弱死、剖検

北獣会誌　57，475～476（2013）

コバシギンザンマシコ *Pinicola enucleator kamtschatkensis* は、スズメ目アトリ科ギンザンマシコ属 *Pinicola* に属する野鳥である。北海道大雪山系などで少数が繁殖しているギンザンマシコ *Pinicola enucleator* の亜種で、国内では1957年に新潟県でその生息が観察されている。北海道では1986～1987年にコバシギンザンマシコと思われる野鳥の目撃例があるのみで、全国的にもその観察例はきわめて少ない[1]。今回、酪農学園大学野生動物医学センター（以下、WAMC）にコバシギンザンマシコ *Pinicola enucleator kamtschatkensis* と考えられる傷病個体が搬入され、斃死後、その個体を検査する機会を得たのでその概要を報告する。

材料と方法

2012年11月22日13時15分頃、江別市上江別南町のコンビニエンスストアの駐車場で野鳥1個体が衰弱していたところを保護され、近隣の動物病院で治療を受けた。収容時、元気および食欲はあったが飛行はできなかった。27日の早朝に死亡が確認され、同院で冷凍保存された。

同個体はWAMCに搬送され、各種の検査が実施された（同施設カルテ番号AS13089）。作業者の安全を確認するため、吉野ら[2]の方法に準じてインフルエンザウイルス簡易試験キット（デンカ生研製「クイックSインフルA・B生研」）およびウエストナイル熱ウイルス簡易試験キット（米国Medical Analysis Systems, Inc.社製「WNV/SLE Vec Test」を用いてそれぞれのウイルスについてスクリーニング検査を実施した。

いずれのウイルスについても陰性であることを確認した後、個体の外部測定および外部寄生虫検査を実施した。剖検は常法に従って実施し、羽毛付きの皮膚は仮剥製の証憑標本としてWAMCに保存された。その後、全ての臓器の一部と消化管内容物は今後の比較検査用試料とするためWAMC内の冷凍庫（−20℃）に冷凍保存された。

成績と考察

本個体の頭部羽毛は茶色であった（**図1**）。また、体格測定値は**表1**のとおりであった。インフルエンザウイルスおよびウエストナイル熱ウイルスの簡易検査はいずれも陰性であった。また、外部寄生虫検査も陰性であった。外部所見としては竜骨突起が顕著であり、換羽は認められなかった。皮下脂肪がほとんどなく、頭蓋骨は骨化が不完全で、死後変化と思われる出血痕が認められたが、諸臓器の著変を示す所見はみられなかった。なお、卵巣が存在していたことから本個体は雌と判断された。

連絡責任者：浅川　満彦　酪農学園大学獣医学群　E-mail : askam@rakuno.ac.jp

図1　コバシギンザンマシコ個体の背側（左）および腹側（右）
背景のメッシュ辺は10 mm を示す。

表1　斃死したコバシギンザンマシコの体格測定値

測定項目	測定値	測定項目	測定値
体重（g）	31	尾長（mm）	93.0
全長（mm）	208	露出嘴峯長(mm)	16.3
翼開長（mm）	294	全嘴峯長（mm）	20.8
自然翼長（mm）	109	嘴高（mm）	12.4
最大翼長（mm）	110	嘴幅（mm）	19.7
翼差（mm）	39	全頭長（mm）	39.2
翼幅（mm）	71	ふ蹠長（mm）	21.1

実体顕微鏡下で諸臓器および消化管を精査したが、内部寄生虫は認められなかった。以上の結果から、直接的な死因は不明であったが、皮下脂肪がほとんどなかったことから衰弱による死亡であると推察された。

コバシギンザンマシコ *Pinicola enucleator kamtschatkensis* は国内での観察例が少なく、その行動学的あるいは生態学的な特徴はほとんどわかっていない。また、著者らの知る限り国内での剖検記録は見当たらないことから、本個体のデータおよび剖検所見は貴重な記録である。

本報告を行うにあたり、さまざまなアドバイスをいただいたエコ・ネットワーク、長谷川　理氏に心より感謝します。

参考文献

[1] 北海道新聞社、ロシアから天売に珍客、北海道新聞、2012年11月22日夕刊（2012）

[2] 吉野　智生、藤本　智、小林　伸行、前田　秋彦、前田　潤子、大沼　学、桑名貴、村田　浩一、浅川　満彦：帯広市内で発見されたハシブトガラス *Corvus macrohynchos* 白化個体死体のウイルス学的検査および剖検記録、北獣会誌53、165-167（2009）